

学習塾でこそ、学習習慣を育成するための『躰(しつけ)教育』を  
—『開倫塾 12 の躰(しつけ)プログラム』の挑戦—

開倫塾

塾長 林明夫

**Q 1 :** 開倫塾では、1979年の創業以来、「躰(しつけ)教育」を年間プログラムを組んで行っているようですね。なぜですか。

**A :** 開倫塾で学ぶ塾生の皆様に、家庭教育、学校教育で不足する「躰教育」をさせていただくことは、社会教育機関としての学習塾の社会的役割・ミッションと考えたからです。

**Q 2 :** 開倫塾の躰教育の目的は何ですか。

**A :** 開倫塾では、「学習習慣の育成」を躰教育の目的としています。

**Q 3 :** なぜですか。

**A :** 開倫塾では、「自己学習能力の育成」を教育目標としているからです。「自分から進んで学ぶ力」、「主体的に学ぶ力」と同意義の「自己学習能力」育成の第一段階は、「学習習慣」を身に着けることにあると考えます。

**Q 4 :** 開倫塾の「12の躰プログラム」とは何ですか。

**A :** 「学習習慣を育成」するために、1年12か月、各月で主に取り組むべき項目を予め明示し、その月にじっくり取り組む。元気な塾生は、その月に取り組むべき項目以外の、他の項目にもどんどん取り組む。全項目、どんどん深化させることを奨励しています。

**Q 5 :** 毎月の取り組み項目は何ですか。

**A :** (一月)は「長い時間、勉強する力を身に着けよう」。

\* 1月は受験の真ただ中ですので、学習時間の確保と、「ハードな長時間自己学習」は必須です。

(二月)は「感謝の心を持って勉強しよう」。

\* 「高い志」としっかりした「目的」、「感謝の心」を持ち、受験勉強と定期試験対策はじめ、すべての勉強を行う。

(三月)は「次の学年の予習をしてから、新しい学年に進もう」。

\* 「よくわからないことをはっきりさせてから授業に臨む」ことが、「予習の目的」。

(四月)は「靴は手でそろえよう」。

\* 「脚下照顧」、足元を明るく照らし、自らを振り返る。

(五月)は「5Sを身に着けよう」。

\*「5S」とは、ローマ字で書くと「S」で始まる5つの取り組み。

- ①「整理(いらぬものは捨てる)」。
- ②「清掃(きれいに掃除をする)」。
- ③「整頓(ものは同じところに置く)」。
- ④「清潔(①～③を継続する)」。
- ⑤「躰(自分から進んで行う)」。

(六月)は「美しい立ち居振る舞い」。

\*エチケット。

(七月)は「美しい言葉遣い」。

\*敬語表現を含む言葉遣い。

(八月)は「元気なあいさつ」。

\*元気なあいさつはこちらから行うもの。

(九月)は「辞書を活用する」。

\*「ことばは力」、「語彙数は力」。

(十月)は「新聞を毎日読む」。

\*新聞を毎日読み、自分で考える力、批判的思考能力を身に着ける。

(十一月)は「読書を毎日行う」。

\*腰を落ち着けた、古典を含む読書で思慮深さ、自らを振り返る力、読解力を身に着ける。

(十二月)は「勉強の仕方」を身に着ける。

\*学び方を学ぶ(Learning to learn)力を身に着ける。開倫塾では、「学習」を「理解・定着・応用」の「3段階」に分け、各々の段階の学び方を具体的に示した「学習の3段階理論」を、塾生の皆様にお伝えしています。

**Q6：プログラムをすすめる上で、大切なことは何ですか。**

A：(1)各項目がどこまで身に着いたか、折に触れて評価をし、本人にフィードバック、自主的な取り組みを促すことは不可欠です。

(2)この「12の躰プログラム」はどこから始めてもOKです。全部一緒に取り組んでもOKです。

(3)「教育の成果を決定する要因」は「本人の自覚」と「先生の力量」と考えます。「自覚を持って学ぶ」よう、「本人の自覚を促す」ことも欠かせません。

(4)学習習慣として、図書館を活用する習慣も含ませるべきこと、当然です。「学校図書館」、「公共図書館」の活用方法もぜひ身に着けさせてください。「図書館ツアー」はきわめて有効です。年に数回、「図書館ツアー」を企画し、全塾生に図書館の活用方法を紹介し続けましょう。

**Q7：学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。**

A：(1)塾生・保護者・地域社会の皆様、ビジネスパートナーの皆様、社員や時間講師・事務スタッフの皆様、創業の理念や企業の理念を企業の文化として、組織の隅々にまで周知徹底、浸透させたい場合にはどうするか。

- (2)経営トップ自身も含め、組織全体で大切に守り、共有すべき価値観として「～塾、○○の躰プログラム」のような形で取りまとめることをおすすめいたします。
- (3)とりわけ、学習塾・予備校・私立学校のような知識創造型の企業・組織では、共有すべき基本理念、価値観の浸透が、組織運営上欠かせないからです。皆様で協力し、ぜひご挑戦ください。

**Q 8 : 最後に一言どうぞ。**

A : 僭越とは存じますが、今月も先生方がお読みになれば必ずお役に立つと確信する本を、ご紹介させていただきます。

- (1)1冊目は、政治学者で元東京大学総長の佐々木毅著「学ぶとはどういうことか」講談社 2012年3月22日刊です。「学ぶ」とは人生を何度も生きるために「学び続けること」であると喝破。
- (2)2冊目は、前野隆司著「感動のメカニズム」講談社現代新書、講談社 2019年9月20日刊です。同著「幸せのメカニズム」講談社現代新書、講談社 2013年12月20日刊とともに、ご一読ください。学習塾・予備校・私立学校こそ、すべての業務で感動創造、最終的には、ウェル・ビーング(よく生きること)を目指すべき組織体と考えます。
- (3)3冊目は、吉田右子他著「フィンランド公共図書館、躍進の秘密」新評論 2019年11月20日刊です。話題の映画「ニューヨーク公共図書館」(2019年)を超える図書館がフィンランドにあるようです。筑波大学図書館情報メディア系教授の吉田先生とフィンランドの図書館に精通した小泉公乃氏と坂田ヘントネン氏の共著。このような図書館もあるのかと、ワクワクします。本書を参考に各学習塾・予備校・私立学校などの空いているスペースを「図書館」として有効活用して参りましょう。
- (4)4冊目は、ケント・E・カルガー著「スーパー大陸、ユーラシア統合の地政学」潮出版社 2019年11月5日刊です。本書と同時並行して、パラグ・カンナ著「アジアの世紀(上・下)」原書房 2019年11月21日刊をぜひご一読ください。日本の立ち位置をどのように考えたらよいか。イギリスがEUから離脱し、イギリスはEUではないとの立場をとりましたが、国際協調主義、人間の安全保障の推進を外交の基本方針にする日本は、ユーラシア、アジアをどう考えたらよいか、大いに議論すべきです。
- (5)5冊目は、エステル・デュフロ著「貧困と闘う知、教育・医療・金融・ガバナンス」みすず書房 2017年2月17日刊です。第1部の人間開発、第1章教育(通わせるか、学ばせるか)と、第2章健康(行動と制度)は読みごたえがあります。
- (6)6冊目は、入山章栄著「世界標準の経営理論」ダイヤモンド社 2019年12月11日刊です。こまかな時間を見つけて繰り返し読み続ければ、必ずお役に立つ経営学の素晴らしいテキストと確信いたします。同著「世界の経営学者はいま何を考えているのか」英治出版 2012年11月25日刊と、同著「ビジネススクールでは学べない世界最先端の経営学」日経P B社 2015年11月24日刊ではとても語りつくせないと考え、バランスよく、また、コンパクトに「世界標準の経営理論」を取りまとめたと思われる本書は、読めば読むほど味わいが出ます。

<プロフィール>

開倫塾塾長

学校法人有朋学園有朋高等学院理事長(福島市)

社会福祉法人両崖福祉会特別養護老人ホーム清明苑監事(足利市)

足利商工会議所議員、日本商工会議所女性・シニア・外国人活躍推進専門委員会委員

公益財団法人文字・活字文化推進機構理事

公益社団法人経済同友会幹事(東京)

栃木県教育委員会栃木県社会教育委員(2004～2012年)

2020年2月3日(月)